（別紙4）　　　　2022年度（令和4年度）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471501282		
法人名	医療法人社団　常仁会		
事業所名	グループホーム　沼南ひだまり		
所在地	広島県福山市水呑町3337－1		
自己評価作成日	令和4年11月30日	評価結果市町村受理日	令和5年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	令和4年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

高齢化も相まって身体機能の低下や認知症の状態の違う様々な入居者が生活している中、満足した生活を送ってもらえるよう生活歴や普段の会話の中などから得た情報や発言を基に、出来る限り実行したり、その活動を継続できるよう努力しています。食事では食べたいものをなるべく入居者から意見が出るよう話をして料理作りを行っています。また畑を家でしていた方が入居された時にどんなものを育てていたのか、今の時期にどんなものを植えたらいいのか話をし、話の中で出てきた種を植え、水やりをしたり肥料を足すこと、草取りまで入居者の役割として行ってもらえるようにしています。日中や夕食後に団欒の場を設け入居者・ライフメイト（スタッフ）と一緒にお茶やお菓子を食べたり飲んだりしながら冗談を言ったり、入居者同士助け合う、お互い意見を言い合うなど普通の家でもあるような喜怒哀楽のある生活を送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所には開放的なリビングがあり、利用者は好みの場所で会話を楽しみ役割を果たしながら過ごしている。職員は利用者の尊厳を保ちつつ家族と同じように関わり、利用者との話し合いや会話から利用者の把握と理解に努め、希望に添った支援に取り組んでいる。介護目標やライフチャートなどの記録類は明瞭な様式で細かに記載され、情報共有とともに介護計画の実践や見直しに活かされている。母体となる法人と連携して各種委員会や研修、避難訓練を実施し、職員の育成にも努めている。管理者は職員の意見の反映に努め、利用者の居心地の良い生活の場となるよう環境整備を行い、誕生日や正月などの行事も開催し、理念の実践と利用者への充実したケアにつなげている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の方が地域でその人らしく暮らせるように、地域生活の継続を支えるための理念を掲げている。管理者や職員は、理念を確認できるよう事務所に掲示して見ている。今年度はコロナ過ではあるものの落ち着いていた時期に地域の清掃活動に参加して短時間ではあるが交流を図った。	理念を玄関と事務所に掲示して共有している。ミーティングやカンファレンスで実践状況を話し合い、日々の充実したケアにつなげている。法人理念の「地域社会への奉仕・貢献」への取り組みとして管理者が清掃活動に参加している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で地域の方と日常的に交流する事はなかったが、コロナの影響が落ち着いていた時期に地域の清掃活動に参加して交流を図った。	コロナ禍の為、以前のような活発な交流はできてない。今年度近隣の公園の清掃活動に参加し、地域住民との交流を図る事ができた。また普段のゴミ出し時などに住民と会えば挨拶を交わしている。地域住民から相談があれば対応も可能である。	コロナ禍の状況や法人の方針に応じて、以前のような演奏会などの地域活動の参加ができる機会が得られることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内に市からの委託事業である包括支援センターがあり、そこが役目をになっている。運営推進会議で認知症についてメンバーが困っていることがあれば、その都度アドバイスをしていたが、今年度は新型コロナウイルスの影響で運営推進会議が開催されていないので、アドバイスが出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーに参加を呼びかけ2か月に1回開催している。事業所の状況報告、取り組みやその状況を報告している。今年度は新型コロナウイルスの影響で開催できていない。	コロナ禍のため開催できていない。市の判断や状況に応じて、再開時にはメンバーに連絡することにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価の提出の際に情報を伝えている。運営推進会議の開催されている頃は市職員に連絡して参加してもらい実情を伝えていた。しかし今年度も新型コロナウイルスの影響で出来ていないので、積極的には伝えられていないが、再開できるようになれば、市職員に連絡して以前と同じように伝えていく。	市との連携は法人が行い、困り事や相談事があれば法人や法人内の地域包括と話をしている。市からの情報は共有出来ている。居宅介護支援事業所やケアマネからの問い合わせがあり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する資料をスタッフ全員にみてもらっている。具体的な行為については事務所に常に掲示していつでも見られるようにしている。今年度はなかったが、身体拘束かどうか不安な場面があればミーティング等で検討はするようにしている。玄関の施錠については20:00～8:30までとしており、日中は自由に出入り出来るようになっている。	3ヶ月に1回法人内で委員会を開催し、職員で情報共有している。12月には事業所内で資料研修を行った。利用者の状態把握に努め、本人の意思に沿ってベッド柵の位置を検討し見守りを行って支援している。日常的に気づきがあればその場でスタッフ同士で声を掛け合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	認知症の中核症状やBPSDに対して理解する事でスタッフがストレスを感じる事が減るのではないかと考えている。今年度はスタッフ全員に認知症の中核症状とBPSDのについての簡単な動画を見てもらった。勉強する事で虐待につながらないのではないかと考えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で権利擁護に関することについて学ぶ機会もある。パソコン内に権利擁護に関する動画が入っておりスタッフはいつでも見られるように環境を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	死亡が3件あり、家族・医師と充分話し合った上で退居している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の言動や態度からその人の思いを察する事とし、その人本位の生活が出来るよう運営に反映させている。また家族等へはひだまり訪問時や電話をした際に話をする中で、思いを聞いたり、意見や要望があれば、運営に反映させている。	利用者の日常生活や会話から食事や入浴などへの要望を聴き、早めの対応を心がけている。利用者の様子から席の配置を検討し、利用者同士の関係支援にも努めている。家族からは電話や面会時に意見や要望を聴き、外泊への問い合わせなどがあり、対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや仕事終わり、面接時などにスタッフより意見や提案を聞く機会があり、可能であればその都度反映させている。その場で判断できないことはミーティングの場に出して皆で議論して反映できるものはさせている。	日頃からゆったりとした時間を利用して職員と話をしている。毎年の面接では職員の目標や意見を聴いている。職員の意見を積極的に取り入れ、物品購入や行事などへの反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	方針に沿った頑張ることを評価するシステムがあり、年一回の面接をしている。また、不満などがあれば、その都度聞き、改善できるようであればその都度改善している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加したり講師として新人や中途採用者に教えるなどスタッフを育てる取り組みをしている。新人や中途採用者の方に対しては、法人内で活用している新人研修プログラムに沿って研修を受けてスキルアップを図って頂くようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人間では会議や委員会などで交流する機会がある。外部の同業者の交流については新型コロナウイルスの影響で出来ていない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時や面接時に多くの情報が得られるよう家族・本人と話をするが初期より得られる情報は少ない。その為、入居後関わりを大切にし、本人と話をする中で新たに得られた情報を家族に伝えてさらに情報を収集するなどして本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接や入居時に家族が困っている事、不安なことなどを聞き、家族の思いを知ること、そのことに対してどう取り組んでいくか話をして信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面接や情報提供書を基に必要としている支援を見極めるよう努めている。また本人や家族と話をすることで不安な事、困っている事を知り解消するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方は人生の先輩であり、共に過ごす事で多くの事を勉強させて頂いたり、教えてもらうなどしている。スタッフは出来ない事や不安なことを支援する事で相互の関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などにどうすれば本人がその人らしく生活できるかを家族・スタッフで話をしながらともに支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年も新型コロナウイルスの影響によりなじみの場所には行けていない。また直接の面会がまだできないためなじみの人との交流もしていない。	子どもや孫の面会があり、窓越しに顔を見ながら電話で話をしている。12月に「ひだまり通信」を発行し利用者の日頃の様子を写真で家族に伝えている。年賀状を書く人、個人携帯を所有している人、家族から架電がある人の支援などで、馴染みの関係の継続支援に努めている。ドライブ時に自宅周辺を通り、利用者が喜ばれた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつの時間などにみんなで集まりゆっくり過ごす時間(団欒の場)を設けたり、体操の時間に集まって行うなどしている。入居者同士で一緒にテレビを見に行ったり、食後の食べた食器類やおやつを食べた後のコップなど他の入居者の物も一緒に下膳をしてくれたりするなど入居者同士支え合う姿も見られている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される時は、いつでもひだまりに来て頂いて良い事を伝えるようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と日々会話したり、その人の行動や表情を見る、家族に日々の情報を伝え共有してさらに情報を得るなどしている。そこから出来る限り一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。ターミナルで寝たきりの方など本人からでは希望や以降の把握が難しい場合は、家族と話をしながら、本人本位の立場で検討している。	利用者との会話を大切にし、日常生活の中で利用者の好みや状態の把握に努めている。本人の訴えから要因や場面を考慮し家族と連携を図り、環境を整えるなど対応している。困難な場合は、声かけや身振り手振りで働きかけ、表情やしぐさから本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にその人がどういった生活を送ってきたのか、どんな暮らしをしてきたのか、生活環境はどうだったのかなどを把握する様にしている。入居前の情報だけでは不足しているので、入居後も本人から話を聞いたり、家族に本人の話を伝え、そこから新たな情報を収集するなどしてこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活をライフチャートや日誌などに情報を記録し、職員同士で共有している。また、カンファレンスやミーティングにて現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のミーティングやカンファレンスにて本人の希望や意向、ケア時の様子、家族からの意向などの情報を元に話し合いをして意見やアイデアを出している。またミーティング以外でもスタッフ同士で意見を出すなどしている。これらの情報からモニタリングを行い、現状に即した本人のための実行可能な介護計画を作成している。	担当者が入居者のケア目標などの意見を出して本人の要望に添って現状に即したケアプランを作成している。毎月のカンファレンスやミーティング内容をモニタリングやアセスメントに活かし、次回のプランへと反映させている。基本3ヶ月で見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ライフチャートや日誌などあらゆるものに日々の様子などを記入し、スタッフ間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。その際入居者本位の計画を立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のその時々に生まれるニーズに対応するため、法人内の他職種と連携して支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の高齢者の集いや近隣の老健で行われているちぎり絵（ぬり絵）、買い物に参加することで、入居者の心身の力を発揮しながら暮らしを楽しむことが出来ると考えている。今年も新型コロナウイルスの影響で出来ていない。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居面接時や入居時に医療体制について説明し納得が得られている。他科受診については入居時やその都度家族と話をし希望を聞いて対応している。	入所時に事業所での対応を説明し、納得が得られたかかりつけ医となっている。定期的な往診があり、体調不良時には看護師の協力体制も得られる。夜間緊急時は主治医の指示に従っている。歯科は状況に応じて、往診や受診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者との関わりの中で変化がある時はすぐに報告し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際に、本人の情報が分かるよう介護添書を渡している。今年も新型コロナウイルスの影響で面会にいけなかったが、入院時に電話にて情報収集し主治医や看護師に相談するなどして早期退院ができるように努めていた。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や早い段階から、高齢のため、いつ何が起こるか分からない事、事業所で出来る事・出来ない事を説明したり、体調の変化があった時には今後の方針について看護師を含めて家族と話し合いをしたりする。	重症化に伴う方針や対応の説明を行い、本人や家族と話をして今後の方針を決めている。利用者の退院後、再び事業所での生活を家族が希望し、本人・家族、医師・看護師を交えて話し合い、身体の清潔保持や苦痛の緩和など事業所で出来る最大限の支援に努めている。看護師の協力のもと、少量ではあるが経口摂取することができ、その姿に家族は喜ばれた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、訓練を行っている。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議に防災士の方に参加して頂いている。今年も運営推進委員会の開催が出来なかったので、地域の方と話をする機会がなかった。火災について起こった時にどうするかどこに消火器があるのかどこへ避難するのかなどミーティングなどで伝えている。災害マップは事務所に貼っている。また年2回の避難訓練を行っている。	年2回夜間想定も含めた避難訓練を利用者も参加して法人と一緒に行っている。新人スタッフには避難経路の確認も行っている。2～3日分の備蓄を備えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は人生の先輩であることを常に意識し、一定の距離を保ちつつ、出来る事と難しい事を把握して適切な対応をこころがけている。	法人制作の動画を基に接遇の研修を行っている。利用者のこれまでの生活歴を尊重し、尊厳を保ちながら家族が接するのと同じ様に対応している。申し送りは個人が特定できないよう小声やイニシャルで行い、排泄や入浴なども羞恥心やプライバシーに配慮して支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自分から「したい事」が言い易い環境作りや担当制を導入しており、入居者と一緒になって考えたりする事で自己決定ががし易いようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「日々何をして過ごすか」について会話の中から汲み取って過ごすようにしています。どうしても話題が出ない時は生活歴や趣味から話題を出して入居者の状況・状態に合わせてその人らしい暮らしを送れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の様子や生活歴、その他にも家族からどのような暮らしをしていたかを聞くことで、身だしなみやおしゃれが、自宅で暮らしていた延長線になるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来る事と出来ないことを把握して、その人がそれぞれ出来ることを発揮できるように支援している。	基本的に食事の献立は家族からの差し入れや旬の食材を利用しながら、利用者と相談して決めている。利用者は皮むきや調理、皿や盆拭きなど出来る事を一緒に行っている。誕生日にはケーキやリクエストされたメニューを提供し、正月には恒例としておせち作りやお餅つきを行い、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量等を記録して全員が把握できるようにしている。栄養バランスに関しては品目だけでなく、使った食材も書いている。ここに応じて介助内容を変える等の支援もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた口腔ケアを行っている。嚥下状態が悪い方には食前も行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに当施設で使用しているアセスメントと、普段のADL及びIADLから排泄に関する評価を行っている。本人の出来る事と出来ない事、生活習慣も考慮して自立に向けた支援をしている。	利用者の体調に配慮しながらトイレでの排泄を大切にし、パット類も本人に合わせて検討している。アセスメントや本人の生活リズムに沿った声かけを行い、生活リハビリや体操で筋力低下を予防し自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄日誌の考えに基づいて、飲食の工夫や体操と生活動作から排泄に対処している。それでも便秘の症状を確認した際には医療と連携して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人が望む時間に入浴する様にしている。入浴を楽しめるように個人の好む温度に設定したり、普段入浴していた時間で入浴するような工夫をしている。	一人ひとりの生活習慣やその時の要望を大切にして週2回以上希望の時間に入浴を支援している。ゆったりとくつろいだ気分となるよう配慮し、一部介助や見守りをしている。職員との会話を楽しむ人もいる。入浴後は軟膏やクリームを塗布し皮膚のケアを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	在宅での生活習慣を大切にして、普段から休まれる方には臥床を促したり、日中適度に体を動かすことで気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の用法用量については医師や看護師と連携している。同様に服薬の目的と副作用時の症状についても理解に努めており、場合によっては医師、看護師と相談の上、適切に対処します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々人の強みと弱み(嗜好品・楽しみごと)を理解する事に努めている。入居者同士の強みと弱みを上手く掛け合わす事で、共同生活の中で助け合い等から、生活していく喜びや張り合いのある1日になる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在ではコロナへの対策から外出や面会を控えている状況にありますが、普段は地域の催し物への参加や、家族と一緒に外出されたり等、本人も含む望むときに外出している。	利用者は敷地内の畑で大根や花の手入れを行ったり、駐車場を散歩する人もいたりと自由な外出を支援している。戸外でバーベキューや花火大会を開催し、気分転換や季節を感じられるように取り組んでいる。事業所内のワックスがけ時には地域をドライブし車窓から地元の景色の眺めを楽しんだ。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりに確認をしている。金銭の管理に問題のない場合は個人管理してもらったり、難しい場合は、支払いの場面で本人に手渡して支払いをしてもらうなど工夫する支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が望むときに施設に備え置きの電話でやりとりしたり、望まれても電話での会話が難しい場合は家族の声を通訳したりする支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に、日常生活を送る上で違和感のある物を置かないように、また不快になる音を鳴らさないような環境への配慮をしている。その他にも暑すぎず、寒すぎないように空調なども使用して調節する事や季節を感じられる花等を活けたり等、居心地の良くするための工夫をしている。	開放的で明るいリビングにはソファやテーブルがあり、利用者はそれぞれ好みの場所でテレビを見たり談笑するなどして家庭的な雰囲気の中で自由に過ごしている。整理整頓やテーブルの配置を工夫するなど環境整備に取り組み、居心地の良い生活となるよう支援に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席のほかにも、パーソナルスペースとなるように一定の間隔と視覚的な配慮を考えて、過ごす事ができるような場所を数か所用意し、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、自宅から普段自分が使っていた生活家具や着ていた服等を持ってきてもらって使い慣れたモノで心地よく過ごせるようにしている。	入居時に本人と家族でベッドの位置などレイアウトを決め、馴染みの品々を持ち込んでいる。自身で服を選び取れるよう工夫したり、加湿用のタオルを室内に置くなど入居前の生活習慣を継続できるように支援し、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレが分からない入居者には分かるように張り紙をしたり、配置する場合は分かりやすい所に配置する事で安全に生活できるようにしている。その他にも見えやすい所に物を置いたりする事で、話題に繋げたりと工夫している。		

（別紙4（2））

事業所名：グループホーム沼南ひだまり

目標達成計画

作成日： 2023 年 3 月 24 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍の状況の為、以前のような演奏会などの地域活動に参加出来ていない。	法人の方針を踏まえ、可能な場合、地域活動に入居者と共に参加する。	・定期的に入居者と共に地域活動に参加出来るか確認をする。 ・許可をもらえたら、地域活動（タクローズ）に参加する。	12か月
2					
3					
4					
5					

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

（別紙4（3））

サービス評価の実施と活用状況（振り返り）

特定非営利活動法人　あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】			
実施段階		取り組んだ内容 （↓該当するものすべてに○印）	
1	サービス評価の事前準備		①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
			②利用者へサービス評価について説明した
		○	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
			④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
			⑤その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
2	自己評価の実施		①自己評価を職員全員が実施した
			②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		○	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
			④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
			⑤その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
3	外部評価（訪問調査当日）		①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		○	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		○	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
			④その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	○	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
			②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
			③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
			④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
			⑤その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
5	サービス評価の活用	○	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
			②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した（する）
		○	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した（する）
			④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ（取り組む）
			⑤その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）